令和５年度　幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人　専修学園
高田幼稚園

令和５年度の幼稚園評価は、昨年度に引き続き「自信をもって勧められる園づくりを目指して② ～創立100周年に向けて～」をテーマとして掲げ、教職員それぞれが自己評価を実施いたしました。

就労に対する男女共同参画社会が推進され、認定こども園や保育園への入園希望者が増加している昨今。また少子化も急速に進行しており、改めて幼稚園の存在意義が問われています。令和10年12月12日に創立100周年を迎える高田幼稚園としては、今後も津市の幼児教育振興・発展に寄与すべく、幼稚園評価を通して職員一人ひとりが自らの教育・保育活動や園運営を振り返り、現状を見つめ直す機会としました。そして、それぞれの評価結果について皆で話し合うことにより、成果や今後の課題・改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を受け止め、今後更なる「教育活動の充実・教育環境の整備・教職員の資質向上」に努めてまいります。

Ⅰ．教育理念・内容

当園は、真宗高田派本山専修寺の園として、宗祖 親鸞聖人の御教えのもと以下の心（生きる力）を育んでいます。
「あいさつ」「掃除」「礼儀」を実践する心（利他奉仕）・自らを尊び、また他を尊ぶ心（感謝）・日々の生活を楽しく豊かに過ごす心（希望）・自然や生き物に興味・関心を持ち、探求する心（好奇心）
本山参詣、園での仏教行事、日々の生活を通して阿弥陀さま(ののさま)・親鸞聖人の御教えを聞き、園児・職員ともに「なもあみだぶつ」（ごめんなさい・ありがとう）と手を合わせることから始まる一日。集団での「あそび・運動・表現・音楽・製作・英語・行事・地域交流」等、様々な体験を通して「主体性」「基本的生活習慣」「コミュニケーション力」「運動力」など「人生の土台・基盤」となる要素が育まれます。子どもたちが自ら考え、自分も相手も尊重し、相談し、選択し、決定できるよう教育環境を整え、一人ひとりの特性に応じた教育を行っています。子どもは集団生活を通して「ありがとう」「ごめんなさい」の心が育まれ、互いに受け止め合い認め合う中で、のびのびと「自分らしさ」を発揮できるようになります。園生活の中で好きなことや得意なことを発見し、「幼稚園ってたのしい！」「明日も幼稚園にいきたい！」と、子どもにとって「安心できる場所」であり続けることを大切にしている幼稚園です。

Ⅱ．今年度の重点目標

自信をもって勧められる園づくりを目指して② ～創立100周年に向けて～

Ⅲ．評価項目と取組み状況

自己評価項目			取組み状況
自信をもって勧められる園づくりを目指して②	1	園の安定運営を目指し、職員一人ひとりが園児獲得のため主体的に活動することができたか。	園の活動や園児の様子に関して、日々の保育を写真・動画に収めホームページやSNS（Instagram等）他 インターネットを活用し広く発信することで、自園の魅力や方針を周知することができた。 また、在園児保護者との間で積極的にコミュニケーションを深め、安心・信頼してもらうことによって、保護者の口コミを通して園児獲得に繋がる案件も多く見られた。 さらに、園庭開放など一般開放日を例年より多く設け、園外にいる子育て世代とのコミュニケーションの機会を増やすことによって、より多くの方に自園の魅力をアピールできたと思う。 地域行事へ参加の際も、園の魅力がより伝わるよう職員皆でアイデアを出し合いながら、主体的にかつ楽しんで取り組めたと思う。
	2	不適切保育についての情報収集や学びを進め、教諭自身の教育・保育に反映することができたか。	不適切保育に関する様々な情報・報道が上がる度に、職員皆で共有し、自分たちは「していない」のではなく「たまたませずに済んでいる」こと、自分たちはしていないつもりでも園児に不安や恐怖を与えている可能性が十分にあることを確認し合った。 職員が見て気になることがあれば互いに指摘し合える信頼関係を築くこと、またストレスを感じたときには気軽に休憩や休暇を取り合える協力態勢を整えることに力を入れた。 保育に関しては、園児が「させられている」と感じるのではなく自ら「したい」と楽しんで参加できる内容で進め、園児の心に寄り添い、安心して過ごせる環境づくりに取り組むことができたと思う。 さらに研修等にも積極的に参加し、情報収集にも努めることができた。

令和５年度　幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人　専修学園
高田幼稚園

自己評価項目			取組み状況
自信をもって勧められる園づくりを目指して②	３	自園の教育・保育の質について、職員一人ひとりが主体的かつ時代性を意識した上で高めることができたか。	私立幼稚園に対する保護者のニーズの中には「より技術の高い保育」を求める向きもあり、当園もそういったニーズに「教諭主導型の保育」で応えてきたという歴史がある。しかし、現在文科省が幼児教育に求める「主体的・対話的で深い学び」を実践していく中で要となるのは「子ども主体の保育」であり、保護者の中でも子どもが「生きる力」「自ら考える力」を身につけることに対してのニーズが高まっている今、当園も「させられている」と園児が感じる保育ではなく、「楽しいからもっとしたい」と自ら意欲をもって取り組める保育に大きく舵を切った。しかし、当園が長らく培ってきた「教諭主導型の保育」の癖が出ることも多く、まだ発展途上の段階であると感じている。ただ、職員の意識は非常に高まっており保育の中で実践できている場面も多々あるので、今後も引き続き職員皆で関連する研修を受けたり、実践している園等を参考にするなど情報収集をしつつ、より時代性を意識した保育を形にしていきたい。園児が楽しみながら学べる環境の充実を図りたい。
	４	職員が働きやすく、また互いに育ち合うことができる職場づくりに努めることができたか。	「お互いさま」「おかげさま」の精神を掲げ、一人が頑張るのではなく皆で力を合わせながら業務を進めることができた。その結果、職員間で育ち合い、質を高め合っている姿が見られるようになった。 また、学年やクラス、担任や補助教諭という枠組みを超えて「高田幼稚園の先生」と「高田幼稚園の園児」という関係性の構築に努めたので、どの先生がどの学年・クラスでも保育ができるという状態を作り出すことができた。 顕著なのは、感染症で多数の先生が休んだ状況でも滞りなく保育が進んだことである。特に問題が発生することもなかった。 さらに、有給休暇は「いつでも取得できる」ことを職員間に周知徹底し、罪悪感を持つことなく自由に休暇が取れる職場の雰囲気づくりに努めることができた。このことにより「お互いさま」「おかげさま」の協力態勢がより強固なものとなったように思う。
	５	防災・防犯についての取り組みを行い、その内容を保護者や地域に周知することができたか。	建学の精神・教育理念を保育に反映させることや、保育内容・保育サービスの充実はもちろん大切だが、園として第一に優先されるべきことは「園児の安全」である。保護者から預かった園児を無事に保護者へ引き渡すこと。これこそが幼稚園としての使命であるという共通認識を職員間で持ち、日々の保育や避難訓練・不審者訓練に取り組むことができた。 特に避難訓練・不審者訓練は様々な想定の下で行うことができ非常に有意義な内容となった。保護者より、実際の地震発生の際も家庭において園児自ら避難したという話も多数聞いている。 訓練の内容はホームページやSNS（Instagram等）他 インターネットを通して、また直接話をする形で保護者に周知することができた。 一方で、地域との連携を図る機会を作ることができなかった。 また、今年度は救命講習やAED訓練の実施に至らなかった。
	６	創立100周年に向けて、具体的な取り組みを行うことができたか。	100周年事業としては、職員間では以前より園の「改修・改築・増築」「新築」など様々な案が上がっていたが、園舎の躯体はまだ老朽化していない状態であること、また急速な少子化の中で園の規模を大きくすることが適切であるのかという議論もあり、具体案のないまま進んでいた。 その他、園の歴史・伝統を尊重しつつ、一方ではそこだけに捕らわれず時代のニーズに応えられるような事業にしたいという声もあった。 その中で、給食室を新設し食育に力を入れていくのはどうかという案も上がっている。この案には昨今の食事の無理強いに関する不適切保育の報道も大きな影響を与えており、長らく「給食センターからの配食」というスタイルを取ってきた当園としても、新たな保育の流れを生み出す絶好の機会であると期待が高まっている。仏教園という側面から考えてみても、改めて食育に取り組むことで「いのちの教育」に立ち戻ることが期待できるのではないかとの議論がなされた。

Ⅳ．園の評価　　Ａ：できた　　Ｂ：おおむねできた　　Ｃ：できなかった

B	学校評価の主旨をよく理解し、全職員それぞれが考えを出し合い主体的かつ積極的に取り組むことができた。 また、個人で取り組むのではなく、職員間で共有・実践することによりチームとして取り組むことができた。 その結果、各項目についておおむね達成できたと評価している。 今後は次年度に向けて引き続き取り組みを行い、具体的な課題を抽出し、さらなる質の向上を目指す。 特に100周年事業に関しては規模が大きいので、職員一丸となって取り組みを進めていきたい。

令和５年度　幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人　専修学園
高田幼稚園

Ⅴ．今後取り組むべき課題

自信をもって勧められる園づくりを目指して②	1	園の安定運営を目指し、職員一人ひとりが園児獲得のため主体的に活動することができたか。	就労に対する男女共同参画社会が推進され、また少子化も急速に進行している中、幼稚園への入園希望者は大幅な減少傾向にある。その状況で「幼稚園の魅力」「幼稚編に入園するメリット」をどれだけ多くの人に伝え、理解を得て、入園に繋げることができるのか。そのことを職員一人ひとりが「自分のこと」として考え、皆でアイデアを出し合い実践しながら、少子化の中にあっても充実した園運営ができるようにしたい。 他と競合するのではなくワン＆オンリーの園づくりを行い、その魅力を発信し続けていきたい。
	2	不適切保育についての情報収集や学びを進め、教諭自身の教育・保育に反映することができたか。	不適切保育については内容や状況が多岐に渡るため、今後も引き続き情報収集と研修の積み重ねが必須であると思われる。自分たちにとって「正しい」と思って行っていたことが園児に大きな不安を与えていたというケースもあり、自園を内と外両面から分析していく姿勢・意識を持ちながら保育を進めたい。そういった視点で保育を行うことは、結果的に保育の質を高めることに繋がるだろうと考える。 また、強いストレスの中で業務を行うことも不適切保育に繋がる要素の一つであると考えられるので、職員のメンタルケアにについては、全職員が互いにいつも気をつけながら協力態勢を継続していきたい。
	3	自園の教育・保育の質について、職員一人ひとりが主体的かつ時代性を意識した上で高めることができたか。	今後「子ども主体の保育」をさらに研究し、子どもが「生きる力」「自ら考える力」を身につけることができるように保育を行っていきたい。ともすれば「教諭主導の保育」を行ってしまいがちであるが、園児一人ひとりの特性の理解に努め、それぞれにとって適正な環境設定・計画をもって進めていくことができればと思う。 保護者のニーズに応えることを優先事項と考えず、園生活がまずは園児にとって楽しく、意欲が湧き起こるような充実した時間・内容となっているのかを最優先事項としたい。 何より教諭自身が保育を楽しみ、園児と互いに大切な時間を充実したものとしたい。
	4	職員が働きやすく、また互いに育ち合うことができる職場づくりに努めることができたか。	これからも継続して、「お互いさま」「おかげさま」の精神で職員同士の協力態勢を深めていきたい。 また、保育後などに職員同士が相談や思いを語り合える場所づくり（休憩室の充実など）もしていけると良いと思う。 「職場に尽くす」「奉仕する」精神も大切だが、「こうあるべき」「こうするべき」というプレッシャーを感じながらの仕事ではなく、「楽しい」と生きがいを持って業務に取り組めるような職場環境を作っていきたい。
	5	防災・防犯についての取り組みを行い、その内容を保護者や地域に周知することができたか。	園での避難訓練・防犯訓練は常に最新情報を収集しながら引き続き取り組みを行っていく。 今後は、地域との連携による防災・防犯の取り組みを行っていきたい。そのために、避難訓練・防犯訓練のみではなく園行事等へ招待するなど、日頃よりコミュニケーションを深めることによって信頼関係を構築していくことが望ましいと考える。 また、救命講習やAED訓練も実施していきたい。これらに関しても、地域と連携して行うことも有効だと考える。 また今後、園の躯体に対する耐震検査を予定している。新耐震基準の建物ではあるものの、築約40年経過していること、能登半島地震での教訓などを生かし、改めて検査をして大きな災害時に備えたい。
	6	創立100周年に向けて、具体的な取り組みを行うことができたか。	「100周年」をキーワードとしながら、今後も必要とされる幼稚園、選ばれる幼稚園であり続けるための事業を展開する機会としていきたい。ただ新しい事業をすれば良いのではなく、それが子どもたちの育ちにとって力となる内容であったり、保護者にとって子育て支援となる内容であったり、保育の質向上につながる内容であったりと、全職員で協議しながら焦点を定めて行っていきたい。

Ⅵ．学校関係者の評価　　Ａ：できた　　Ｂ：おおむねできた　　Ｃ：できなかった

B	・100周年に向けてのキャッチフレーズを作ってみてはどうか？ ・100周年をきっかけにして、時代に合わせて大きく舵を切ったことはとても評価できる ・時代に合わせつつも「高田幼稚園の伝統・らしさ」「私立幼稚園らしさ」を大切にしてほしい 子どもを入園させる保護者さんは「高田幼稚園」のファンであり、「私立幼稚園で学ばせたい」という思いを持っているはずなので、その期待に応え続ける姿勢も忘れないでいてほしい ・救急救命やAEDについての訓練は、毎年必ず行ってほしい ・保育サービスの充実を図りながらも、それが家族を分断するものであってはいけない 「家族間のコミュニケーション時間を確保できる」「コミュニケーションがより深まる」ための保育サービス拡充であってほしい ・給食センターの利用も良いが、できれば自園調理の環境を整えてほしい

Ⅶ．財務状況・その他

公認会計士監査により、適正であると認められている。